

上関町の魅力を伝える 体験ツアーを考えてみよう

海外旅行に行くこと、かなり田舎と思われるような場所でも「現地オプショナルツアー」が宿泊施設や観光案内所で申し込めるようになっていて、その土地ならではの楽しみ方を気軽に体験することが出来ます。南の島であればダイビングなどのマリンスポーツやイルカウォッチングなど、内陸部であればハイキングや乗馬、星空ウォッチングなど、都市部では市内の主要な観光施設を巡ったり、歴史的な建物や場所を巡るツアーなど。それぞれ、ガイドと食事がセットになっていたりすると、ちょっとした体験でも立派な観光ツアーになり、お客さんにも喜んでくれます。もちろん、このようなサービスは有料になるのですが、「せっかく訪ねて来たのだから、その土地の魅力をもっと知りたい、体験したい。」と思うのが旅行者の心理ではないでしょうか。

そして、このような現地オプショナルツアーによって、その地域のさまざまな事業者や個人が経済的なメリットを享受できる仕組みになっています。

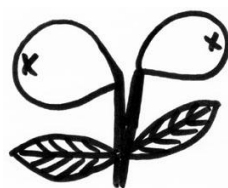
しかし、日本国内では、現地で申し込める体験ツアーのようなサービスはあまり見かけません。観光地ではボランティアの方が無料で案内してくれる所もありますが、その地域の経済的メリットや雇用の面、そしてお客さんの満足度を考えると、やはり有料にしても、しっかりとしたサービスを提供することが重要だと思えます。

今回は、「上関町の魅力を伝える体験ツアー」を皆さんと一緒に考えてみましょう。それが実際に事業として実現できて、上関

町の活性化につながれば一番いいのですが、考えてみるだけでも、上関町の魅力を自分たちなりに再認識することができると思えます。

では、上関町の魅力は何でしょうか？美しい自然、きれいな海、古い歴史、温かい人情、新鮮な海の幸、みかんやビワなどの美味しい山の幸、絵になる風景、ホッとできる雰囲気、騒音が少なく静か、ゆったりとした時間の流れ、ネ「がたくさん」いて癒される、・・・。

人によっては、さまざまな魅力を見出せると思います。



ここでは「わいわいタイムス編集部」が考えた「上関町の魅力を伝える体験ツアー」のアイデアをいくつか紹介します。

◎「朝鮮通信使の史跡を巡る旅」

ガイド付きで朝鮮通信使の史跡を歩いて巡ります。約1時間半のコースです。歩き終わった後は、アツアツのてんぷらをいただきます。

コース：お茶屋の石垣→御番所→阿弥陀寺→小泉家→明関寺跡→竈八幡宮→超専寺

◎「幕末の志士ゆかりの史跡を巡る旅」

ガイド付きで、吉田松陰、高杉晋作、上関出身の奇兵隊員など、幕末に活躍した志士にゆかりのある史跡を歩いて巡ります。約3時間のコースです。歩き終わった後は、アツアツ



肥後屋跡の石碑

のてんぷらをいただきます。

コース：西方寺→肥後屋跡→四海楼→吉田松陰の石碑→砲台跡→お茶屋の長屋門跡



◎「放牧ブタとふれあう旅」

祝島港より自転車か軽トラで氏本農園に移動し、放牧ブタとふれあうことができます。氏本さんから循環型農業の説明を聞いた後、ブタに触ったり、餌をあげたりすることが出来ます。再び祝島港に戻り、「こいわい食堂」にて祝島の食材たっぷりの「こいわい定食」をいただきます。



◎「長島一周スナメリウォッチング」

漁船に乗って長島を一周します。途中、スナメリがよく目撃される海域ではゆっくりと進み、スナメリを探します。ガイドによるスナメリの生態の説明や、周辺地域の生物についての説明を聞くことも出来ます。運が良ければ実際にスナメリに出会えるかもしれません。



◎「シーカヤック体験ツアー」

中ノ浦の砂浜を拠点として、シーカヤックの初心者体験講習やミニツアーを行います。経験者には日帰りツアーなどで、ちょっとした冒険体験と、長島の美しい自然を満喫することが出来ます。

◎「伝馬船体験」

伝馬船の漕ぎ方を漁師さんから教えてもらう体験ツアー。

◎「海からの贈り物アクセサリ作り体験」
海岸でシーグラスや貝殻を拾って、ストラップやブレスレットなどのアクセサリを作る体験。世界にひとつだけの自分の宝物をつくる事が出来ます。



これは、ほんの一例・・・まだまだいろんな体験ツアーを考えることが出来ると思います。皆さんの周りにはどんな魅力的な風景や人や食べ物がありますか？わいわいタイムス編集部では、そんな魅力的な上関町を紹介していきたいと思えます。ぜひ情報をお寄せください。

ところで、せっかく考えても、実現しなければ「絵に描いた餅」です。できれば、上関町でこのような体験ツアーを数多く実現し、「上関町ですごく楽しくて魅力的な町ですね！」と、他の町の皆さんに何度も訪れていただけるようにしたいものです。そうなること、若い人の雇用に結び付き、お年寄りの生き甲斐にもなり、地域の活性化につながっていきます。そのためには、これらの体験ツアーの受付窓口や、ガイドや指導者役の人が必要になります。食堂やお店、漁師さんや農家の方の協力も必要です。このようなプロジェクトの中心となって本気でやっつけていこうとする人、そして協力してくれる人など、地域の多くの人が信頼関係で結ばれてこそ、このようなプロジェクトが実を結びます。